

Poetry Reading in Translation: Listening to Women's Voices
詩人×翻訳者による自作×英訳 朗読コラボレーション

【特別ゲスト】

伊藤比呂美 × 平田俊子

2016年7月3日(日)

午後2時～5時(1時半開場)

会場: 旧大津公会堂

JR大津駅徒歩15分・京阪浜大津駅徒歩1分

定員: 80名(予約不要・直接会場にお越しください)

入場料: 無料

【朗読者・朗読詩歌】

伊藤比呂美

「カノコ殺し」他

平田俊子

詩集『戯れ言の自由』他

新井高子

詩集『ベットと織機』他

川野里子

歌集『王者の道』他

田中教子

歌集『乳房雲』他

【英訳朗読】

ジェフリー・アングルス

(翻訳者・詩人、西ミシガン大学准教授)

キャロル・ヘイズ

(翻訳者、オーストラリア国立大学教授)

女の詩声が降る

おんなのうたごえがふる

第二回日英翻訳詩歌朗読講演会

世界を舞台に活躍する女性詩人・歌人による朗読を
日本語と英語できいてみませんか

お問い合わせ: 滋賀大学経済経営研究所 0749-27-1047

滋賀大学経済学部 菊地利奈研究室 kikuchi@biwako.shiga-u.ac.jp

後援: JSPS科研費15K01915、滋賀大学経済学部後援会

【日英翻訳詩歌朗読会について】

現在活躍している日本女性詩人・歌人の作品を世界の人々にも読んでもらいたい、日本文学界の女性が紫式部と与謝野晶子だけでないことを知ってもらいたい、女性の声の多様性に耳を傾けてもらいたい、との想いで日本女性詩歌翻訳プロジェクトを立ち上げてから三年近くが過ぎようとしています。このプロジェクトでは、訳した英訳とそのもとになった日本語の詩歌をきいて味わっていただけるよう、朗読会も開催しています。

詩や短歌をひとりで黙読することと、朗読をきくことはまったく別の体験です。特に作者本人による自作朗読には、衝撃的といってもよいほど詩世界をひろげる力があります。ひとりで読んで「よくわからないな」と思った詩や短歌も、作者の朗読をきくことで、はっと気づく瞬間が生まれるように思います。

今回は、妊娠・出産・子育て・閉経・介護とく女の一生を描きつづける伊藤比呂美さんと、ブラックユーモアがピリツときいた作風の平田俊子さんのおふたりを特別ゲストに迎え、世界を舞台に活躍する五名の詩人・歌人による自作朗読とその英訳の朗読を合わせてお送りします。女性の「詩声(うたごえ)」をご堪能ください。

滋賀大学経済学部准教授 菊地利奈



伊藤比呂美 (Ito Hiromi)

80年代に「女性詩」ブームを引き起こし、その後、詩・小説・エッセイ・絵本・翻訳と幅広いジャンルで活躍。長編詩『河原荒草』(2005)で第36回高見順賞受賞、『とげ抜き 新巢鴨 地蔵縁起』(2007)で第15回萩原朔太郎賞受賞。

平田俊子 (Hirata Toshiko)

詩集に『ラッキョウの恩返し』(1984)、『(お)もろい夫婦』(1993)、『宝物』(2007)など。『ターミナル』(1997)で第39回晩翠賞受賞。『詩七日』(2004)で第12回萩原朔太郎賞受賞。小説『二人乗り』(2005)で第27回野間文芸新人賞受賞。最新詩集は『戯れ言の自由』(2015)。



新井高子 (Arai Takako)

第2詩集『タマシイ・ダンス』(2007)で第41回小熊秀雄賞受賞。最新詩集は、群馬県桐生市の生家を思わせる織物工場を舞台に繰り上げられる『ベットと織機』(2013)。

川野里子 (Kawano Satoko)

評論集『幻想の重量—葛原妙子の戦後短歌』(2009)で第6回葛原妙子賞、歌集『太陽の壺』(2002)で第13回河野愛子賞、『王者の道』(2010)で第15回若山牧水賞受賞。近著に『七十年の孤独—戦後短歌からの問い』(2015)。



田中教子 (Tanaka Noriko)

動物園の動物達に乳癌術後の自らを重ねた「乳房雲」50首で第3回中城ふみ子賞受賞(2008)。日英二ヶ国語歌集『乳房雲』(2010)、現代短歌評論集『Tanka to Eat』(2014)など。奈良キャンペラ姉妹都市20周年記念『美しき余韻 Music of the Heart』(2014)監修。